

グローバル人材の活用で九州の未来を拓こう

～100年企業を目指す本多機工（株）～

1. 100年企業を作るためにグローバル人材の活用を図る

人口減少・少子高齢化を迎えている我が国において、地方企業が50年、100年と生き残っていくには、経営者の高い志と具体的戦略が必要である。

そのような中、多くの優秀な外国人留学生を積極的に採用し、中小企業ながらグローバルな事業展開に成功している、九州・筑豊の地にある本多機工（株）を事例に地方における100年企業の道を考える。

（1）外国人留学生の採用と「のれん分け」ビジネス

100年企業を目指す同社は、人口減少による労働市場の縮小に強い危機感を持つ一方で、九州には多くの優秀な外国人留学生が増えているにもかかわらず、企業にはまだまだ多くを見かけないと感じ、この高度外国人材をうまく活用し、グローバルな戦略を採っていくことが同社の生き残りに欠かせないとして取り組んでいる。

同社の戦略は、外国人留学生を採用し、自社の技術を数年間で習得させた後、母国を中心とした海外で、のれん分けという形で営業をさせることで、後継者の育成と海外ネットワークの構築を図り、市場の拡大に繋げているものである。

（2）外国人、日本人を問わないグローバル人材の育成

また、同社は社内での交流を積極的に行い、自社の価値観や業務のプロセスを深く理解した、外国人、日本人を問わない自社化したグローバル人材の育成に取り組むことにより、彼ら自身で海外での新規ビジネスの可能性も含めて新時代の会社の姿を議論するようになっていくという。

このような同社の成功事例を参考に、今後、積極的に外国人留学生を採用し、活用していく企業が増えていくことが、九州経済ひいては日本経済のグローバル化を図っていくために重要である。

2. グローバルニッチトップ企業が考える「九州出島化構想」

（1）九州を異文化融合の先進地域に

同社の経営者は、高度外国人材を呼び込むために、九州が他のエリアに先駆けて先進的な事例に取り組み、魅力的な島になることによって、九州と国内外との人の流れが出来、海外からも注目を集め、ビジネスチャンスが広がっていくことを期待して、「九州出島化構想」を打ち出している。

例えば、中小企業の支援について、海外進出時のマッチング・交流支援や関

連業務支援などをサポートするところが出てきているが、進出後も継続的に支援できるシステムを構築することの必要性を訴えている。

また、普段から英語に慣れる暮らしを実現するために、メディアの内容・表現のグローバル化や英語教育の低年齢化など社会全体の国際化が必要であるとしている。

加えて、海外の伝統ある大学の九州への誘致やセメスター制（2学期制）の導入、「クールジャパン」を学べる専門学校の創設に加え、高度外国人材には永住権を与えるなど定住化の促進も必要であるとしている。

更に、交通インフラの面でも、郊外の小さな空港にもLCCが活発に乗り入れし、人の流れが出来ることも重要であるし、アウトバーンのような九州一周の高速道路の整備なども考えられる。

外国人観光客に対しては、モスクの情報提供やハラル版ミシュランガイドの作成などおもてなしの気持ちで対応するとともに、特に富裕層向けには、世界に展開しているホテルチェーンと提携し、顧客のデータベースを活用する、あるいは、九州の高級旅館が外国人も泊まれるように工夫して“温泉旅館”から“Onsen Resort & Spa”へと転換を図ることで、来訪客を生むことも期待できる。

（2）九州出島化構想の推進で九州から日本を変える

九州が異文化との融合を図り、外国人と一緒に勉強したり働いたりすることが、ごく自然に受け入れられる社会になるためには、「九州出島化構想」は大変示唆に富むものであり、関係者はおおいに参考とすべきである。

また、こうした取組みは、日本全体として行うことが望ましいが、直ちに実行するのが難しいのであれば、まずは、九州から出来ることを実行していくべきである。

3. 九州からグローバル企業を創出しよう

九州の企業が、今後進行する国内市場の縮小を克服するためには、グローバル人材の活用は欠かせないが、そのためには、言語の壁や高度外国人材の子弟の教育問題の解消のほか、インターンシップや就職活動の仕組みを変えるため、学校、企業、行政など社会全体の意識を変えていくことも必要である。

また、教育の在り方の見直しや社会全体を国際化することなどで、留学生にも負けない九州人のグローバル化も可能である。

そして、何より、経営者が常に先を見据え、様々なアイデアや仕組みを提案し、高度外国人材と日本人従業員を切磋琢磨させつつ、社内の交流・融和を図り、社内全体が未来志向になる、そのような経営の在り方が大事であり、こういう企業が九州から次々と生まれることを強く希望する。

平成26年12月19日

九州の未来力2030

座長 森 本 廣